

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079300184
法人名	社会福祉法人 添寿会
事業所名	グループホーム 添寿の里
所在地	福岡県田川郡添田町大字庄1123-1 (電話) 0947-82-5072

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成19年4月17日	評価確定日	平成19年5月7日

【情報提供項目より】(平成19年4月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤	14人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	階建ての	階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(4月10日現在)

登録人数	17名	男性	2名	女性	15名
要介護1	5	要介護2	5		
要介護3	5	要介護4	2		
要介護5					
年齢	平均 76歳	最低	67歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上野病院 丸の内歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「あんきにのんき」に暮らしていただきたいとの介護理念に沿った職員の生き生きとした笑顔のケアで、入居者は穏やかに個性的に暮らしている。開設当初から地域のお祭り等は参加していたが、運営推進会議開催により、地域代表の運営推進委員等による地域行事の案内で、入居者が地域の清掃活動に参加したり、管理者等と町の高齢者福祉担当者との情報交換の機会も多くなり、地域密着型サービスの基本理念である地域との交流の輪が広がりにつつある。今回初めての「重度化した場合における対応に係る指針」に沿った看取りでは、協力医療機関との連携は勿論であるが、他の入居者の暖かな「気遣い」で豊かなターミナルケアが行えたと管理者等は話している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価の主な改善課題として、①グループホームの看板の設置 ②家族会の発足 ③介護計画・研修議事録等の整備を提示し、看板は近日中に設置予定である。家族会の発足は本年度に実施の予定である。③については、アセスメント記録の整備や介護計画書に入居者や家族の説明と同意の欄を設けている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、管理者・介護計画作成担当者を中心として全職員で実施し、施設長が電子媒体に入力するなど、グループホーム全体で取り組んでいる。</p>
重点項目②	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	<p>グループホームの現状や前回の外部評価結果を報告し、サービス内容について意見を交換している。町高齢者福祉担当者や地域住民代表から地域行事の情報を得て、「女性のつどい」やホーム周辺の清掃活動に参加している。また、町高齢者福祉担当者や運営推進会議以外でも情報交換の機会が多くなっている。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	<p>玄関にご意見箱を設置したり、公的及びグループホームの苦情等窓口案内の掲示や、家族の訪問時や電話・ホーム便りで入居者の暮らしぶり等を伝え、家族の意見等をホームの運営に反映している。本年度は、家族が意見等を表出する機会を増やしたいと家族会を発足する予定である。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>運営推進会議の発足・開催により地域との交流の輪が広がりにつつあり、清掃活動等の地域行事へ積極的に参加しているが、自治会への加入やグループホームの行事を地域の老人会・学校等へ案内はしていない。地域に協力を呼びかけた非常災害等の避難訓練実施も今後の課題である。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法令の基本理念に沿ったグループホーム独自の介護理念を大きく玄関に掲示している。また、法令の改正に沿ったパンフレットを作成している。		重要事項説明書や入居契約書に法令の「地域住民との交流の下」をふまえた運営の目的や方針の記載をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングや定例会議で理念の具現化を目指して話し合いをしている。「あんきに のんきに」の暮らしを支援するために、挨拶の励行や笑顔のある安楽・安全な介護を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同法人の介護保険施設と行事を共催しているが、地域の方々には参加の案内をしていない。地域の「女性のどい」や祭り、グループホーム近隣の清掃活動に参加し、地域との交流に努めているが、地域自治会は加入していない。	○	住民として自治会に加入したり、ホームの行事を地域に案内し、交流の輪を広げていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果を検討し、5月中に看板を設置する予定であるが、家族会の発足や会議等議事録の整備は今後の課題である。話し合いの記録がない。	○	評価の意義の理解を深め活用を促進するために、全職員による自己評価を実施し、外部評価結果について話し合い、具体的な改善をお願いしたい。会議録の整備が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議規約を作成し、適切なメンバー構成で2ヶ月毎に開催している。前回の外部評価結果の説明や家族・地域住民代表等との意見交換がある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での関わりから、町担当者と話しをする機会が多くなったが、その他での関わりは今後の課題である。	○	町内唯一の認知症対応型共同生活介護として、「認知症及び認知症のケア」の周知を図るために、ホームを行政職員に研修の場に提供したり、ホームで介護教室等を開催していただきたい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる	管理者や職員は成年後見制度に関する研修会に参加しているが、制度の運用はない。	○	全職員に成年後見制度等を周知し、入居者が活用できるようにパンフレット等の整備や制度の説明をお願いしたい。また、制度を啓発するために、運営推進会議で研修してはどうかでしょうか。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理は毎月、日々の暮らしぶりや健康状態については個々の入居者に合わせて家族の訪問の折や電話で報告をしている。、ホームの壁に誕生会や外出先で撮影した写真の掲示やホーム便りでも、日々の暮らしぶりを報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にホーム及び福岡県の苦情相談窓口が記載されたポスターを掲示したり、ご意見箱を設置している。また、家族の意向を運営に反映させたいと、本年度は家族会発足の予定である。	○	重要事項説明書等に町介護保険課の苦情窓口の明記や家族会を設立予定とのことであるので、実現をお願いしたい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動が入居者に及ぼす影響を考慮し、運営法人間での職員の移動はない。また、管理者は新しい職員が入居者と馴染みの関係を築けるように、対応等をアドバイスしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	採用条件は高齢者が好きな人とし、差別のある採用はしていない。全職員が常勤で雇用契約書を取り交わし、定期健康診断を支援している。職員の休息の場を設けたり、管理者等が職員の悩みを聞くなどいきいきと仕事ができる体制づくりがある。		自己評価では、男性が就労できる職場づくりを目指したいとのことであるので、今後の取り組みを期待したい。
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	倫理規定に基づく人権教育を実施したり、参加した人権研修は内容を伝達しているが、実施記録がない。身体拘束・虐待防止マニュアルや身体拘束に関するポスターを掲示し、職員や家族等に周知している。	○	今後は人権教育・啓発活動実施記録を作成し、今後の活動に役立てていただきたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・介護計画作成担当者は研修を受講しているが職員の段階に応じた年間研修計画や研修実施がない。	○	新人・現任年間研修計画を作成し、職員の段階に応じた研修実施をお願いしたい。また、研修実施記録の作成もお願いしたい。職員の悩み等は管理者が対応しているが、ホーム外のスーパーバイザーの確保も検討をお願いしたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他町のグループホームと交流することで、ケアの向上に努めているが、グループホーム協議会への加入はない。	○	グループホーム協議会に加入することで、協働で認知症及び認知症ケアの向上と地域への周知をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	パンフレットに体験入居ができることを記載している。体験入居から入居に至った入居者もおり、馴染みながらのサービス利用を支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩として敬う姿勢を持ち、入居者から畑づくりの指導を受けたり、調理方法を学んでいる。		本人とともに過ごし支え合う関係づくりためにも、入居者の生活歴・職歴等のアセスメントをお願いしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族の意向は介護計画書に記載されているが、生活歴・職歴・家族構成等の記載がない。	○	生活歴・職歴等をアセスメントすることで、入居者の思いや意向の把握をお願いしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状況、家族の意見を職員間で検討し個別的・具体的な介護計画を作成しているが、生活歴・職歴等のアセスメント記録がない。	○	チームで介護計画を作成するために、生活歴・職歴等のアセスメント記録が求められる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期・長期目標を設定し介護計画の見直しをしているが、現状に即した見直しは今後の課題である。また、介護計画を家族に説明した日付や確認印がない。	○	毎月、モニタリングを実施し、現状に即した介護計画の見直しや介護計画を入居者や家族に説明した日付の記載や確認印が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関受診、友人宅の訪問、外泊時等の移送サービスを本人や家族の状況に応じて無料で実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を大切にしながら、かかりつけ医受診を支援している。各入居者毎に受診記録帳を作成し、全職員に周知し、状況に応じて家族に連絡しているが、連絡記録がない。	○	家族に医療受診状況を連絡した場合は、記録をお願いしたい。
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応にかかる方針」を全入居者に説明し、同意を得ている。グループホームで終末期を迎えたいとの本人及び家族の意向をうけ、主治医との話し合いを行い、看取りを行っている。	○	家族・主治医・看護師・全職員によるターミナルケア計画書の作成が求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各職員の丁寧な対応で入居者は穏やかである。入居契約書で個人情報の守秘義務は明記しているが、個人情報の保護に関する規定や個人情報の利用目的の公表がない。	○	個人情報の保護に関する規程や個人情報の利用目的の公表もお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者の希望や意向を把握し、食事・入浴・外出を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、日曜日の献立決め、買い物、配膳、下げ膳等、力量に応じた関わりをしている。職員も同じ食事を伴食しながら、食べこぼし等を配慮している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望で毎日入浴する入居者もいるが、午後からの入浴が多い。入浴拒否には時間や声かけする職員を代えることで対応している。		今後は就寝前に入浴の検討もお願いしたい。
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴・職歴や力量に応じて、畑づくり・犬の散歩・配膳等をお願いしている。誕生会等で日本舞踊を舞った入居者もいる。		生活歴・職歴やホームの生活から収集した入居者の能力をフェースシートに記載することで、さらなる役割や楽しみごとの支援をお願いしたい。
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画を作成し、入居者の希望や状況に応じてドライブ、地域のお祭り・行事参加、お花見、セリ摘みに外出したり、近隣を散歩している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が施錠の弊害を理解し、玄関は夜間のみ施錠している。防犯等については、同敷地内の介護保険施設や警察署に協力を依頼している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアル・連絡網に基づき、避難訓練を実施している。消化器の設置はあるが、非常災害用備蓄はない。	○	運営推進会議のメンバーの地域住民代表や家族にも緊急連絡先をお願いし、地域と協力しながら火災・地震・台風等の対策をお願いしたい。また、非常災害用備蓄の検討をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取カロリー、食事・水分摂取量の把握や体重測定を毎月実施している。咀嚼や嚥下状態に応じておかげを用意したり、分食にしている。		嚥下状態をアセスメントし、状況に応じてソフト食や嚥下体操への取り組みもお願いしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体がゆったりとした構造で、広い廊下の角を活用して季節の花や武者人形が飾られている。椅子やソファが食堂・居間・廊下に置かれ、入居者それぞれがお好みの場所で過ごしている。対面式の厨房から、料理を作るまな板の音や匂いが流れ、家庭的雰囲気である。		広い廊下を活用した歩行時の音楽は、入居者の心身の状況に応じた音量の検討をお願いしたい。
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は馴染みの家具や日常品が置かれ、居心地よく過ごせる工夫がある。		